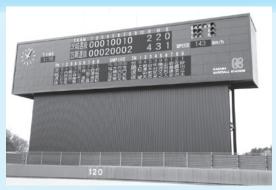
・まちの話題

笠間市民球場のスコアボードが 電光掲示板に

2019年に開催される茨城国体を前に、笠間市民球場のスコアボードが手動式からLEDの電光掲示板へ生まれ変わりました。

平成5年に建設された市民球場(収容人数8,200人)は、スコアボードのほか得点板や選手名、スピードガンによる球速も表示できるようになりました。傷みが激しかった壁やダッグアウトなども綺麗に改修されました。



笠間市民球場電光掲示板



笠間日動美術館の萩野谷事務局長(左)から寄贈を受ける鈴木館長

笠間日動美術館が笠間図書館へ図録や 書籍を寄付

3月2日(金)に、(公財)笠間日動美術館から笠間図書館へ、美術館が今まで開催した企画展で使用した図録や所蔵している作家の画集、関連書籍を含め117点を寄贈されました。

寄贈を受けた鈴木図書館長は、「美術館が所蔵している画集など、 普段見ることができない貴重な書籍を寄付していただいたことを 大変うれしく思います。市民の方を始め一人でも多くの方に見て もらえたら」と話されました。

館内には、新たに笠間日動美術館の関連書籍コーナーが設置されています。

ふるさと名物応援宣言に伴う地域産業資 源活用事業計画が認定

平成28年5月に、笠間市は県内初となる「ふるさと名物応援宣言」を行い、「笠間の栗加工品群」を応援することを宣言しました。これをきっかけに地域資源である「笠間の栗」を活用する気運が高まり、今回、有限会社グリュイエールと農業生産法人有限会社ナガタフーズの「地域産業資源活用事業計画」が認定され茨城県庁において交付式が行われました。

事業計画が認定されたことに伴い、新商品・新サービスの開発や販路開拓等に係る費用の一部を支援する「ふるさと名物応援事業」を優先的に受けることができるようになりました。



認定証を交付された、左からグリュイエールの根本社長、 ナガタフーズの永田社長



友部相撲スポーツ少年団の皆さんと 横綱稀勢の里関(最後列右端)、 大関高安関(前から3列目左端)

友部相撲スポーツ少年団が日本相撲協 会田子ノ浦部屋と交流

2月17日(土)、大相撲の由子ノ浦部屋(東京都江戸川区)に友部相撲スポーツ少年団のメンバー17人が、相撲への取り組む姿勢を学ぶため、稽古見学に伺いました。これは、少年団を運営する保護者の方々が、子どもたちに力士との触れ合いを通じ、相撲はもちろん人として大きく成長してほしいとの思いから企画したものです。

部屋には、茨城県出身の横綱稀勢の里関や大関高安関が在籍しており、 当日は稽古見学のほか、特別に親方、横綱、大関が指導をしてくれました。本物を肌で感じた子どもたちの活躍に期待しています。